



～ 午餐会卓話 石原信雄会長 「平成を回顧して」 2019.5.15 ～

令和時代初めての午餐会は5月15日に開催され、卓話は石原信雄君（当時当倶楽部会長 現最高顧問）の「平成を回顧して」でした。平成時代を中心に7人の総理大臣を官房副長官として支え、政策運営に大きな足跡を残された石原君の貴重なお話でした。全文を以下に掲載します。



今は平成の時代が終わって、令和の時代に入る時期です。この機会に、平成を回顧すると言うか、感想を申し上げてみたいと思います。

皆さんのところに、1枚紙を配っております。



短かった。平均すると2年持たない。今の安倍内閣は安定しておりますが、私が内閣にいました頃は私自身は2～3年務めればお役ご免だと思ってまして、そろそろ辞めさせてもらおうかと思うと、総理大臣のほうが先に辞めてしまって、行政の継続性ということから、次の内閣が軌道に乗るまで手伝ってくれといわれました。

それも、お国のために、そうかなと思って、次の内閣に残り、官僚機構との調整役と言うか連絡役を務めてまいりました。歴代総理がいろいろな事情で辞めちゃうということの繰り返しで、私自身は思いもよらず、8年近くで7人の内閣総理大臣にお仕えすることになりました。そういう次第で平成という時代については、いろいろな思いが重なっています。

皆さん方は、ほとんどが昭和の生まれで、平成の時代にそれぞれの分野でご活躍いただき、この国を支えていただいたと思いますので、それぞれに平成に対する思いを持っておられると思います。

私は大正15年、昭和になる直前に生まれたものですから、私は昭和元年から64年まで生きた。そして昭和から平成の幕開けの時に、総理大臣官邸に務めていましたので、その代替わりの仕事をさせていただいたのであります。

そういうことから、平成という時代を考える場合に昭和との対比で考えることとなります。ご案内のように昭和という時代はまさに激動の時代です。昭和の初め昭和20年まではいわゆる戦前で、軍国主義が蔓延して戦争に突入し、国民生活は苦しく国際社会にもいろいろ迷惑をかけました。

戦後は、荒廃から立ち上がって世界の経済大国に名を連ねるまでに復興したというまさに激動の時代が昭和と

平成改元以降の歴代内閣総理大臣一覧。氏名・在職期間・所属政党を記す。

- 竹下登（昭和62年11月6日～平成元年6月3日）自由民主党
- 宇野宗佑（平成元年6月3日～同年8月10日）自由民主党
- 海部俊樹（平成元年8月10日～平成3年11月5日）自由民主党
- 宮澤喜一（平成3年11月5日～平成5年8月9日）自由民主党
- 細川護熙（平成5年8月9日～平成6年4月28日）日本新党
- 羽田孜（平成6年4月28日～同年6月30日）新生党
- 村山富市（平成6年6月30日～平成8年1月11日）日本社会党
- 橋本龍太郎（平成8年1月11日～平成10年7月30日）自由民主党
- 小淵恵三（平成10年7月30日～平成12年4月5日）自由民主党
- 森喜朗（平成12年4月5日～平成13年4月26日）自由民主党
- 小泉純一郎（平成13年4月26日～平成18年9月26日）自由民主党
- 安倍晋三（平成18年9月26日～平成19年9月26日）自由民主党
- 福田康夫（平成19年9月26日～平成20年9月24日）自由民主党
- 麻生太郎（平成20年9月24日～平成21年9月16日）自由民主党
- 鳩山由紀夫（平成21年9月16日～平成22年6月8日）民主党
- 菅直人（平成22年6月8日～平成23年9月2日）民主党
- 野田佳彦（平成23年9月2日～平成24年12月26日）民主党
- 安倍晋三（平成24年12月26日～現在）自由民主党

この表を見て何を感じるか。平成は30年3ヶ月のあいだにこの表にありますように17人の総理大臣が誕生しております。ということは、1つの内閣の期間が非常に

～ 定例午餐会報告 ～

～ 5月午餐会 ～

新入会員紹介 明智 俊明 君
卓話 石原信雄会長 「平成を回顧して」

～ 6月午餐会 ～

米寿会員祝賀 齋藤 隆 君
卓話 林 達夫 君 「人生 浪花節」



林 達夫 君

～ 7月午餐会 ～

特待会員 中門 弘 君
新入会員紹介(個人) 中川 洋 君
谷戸 義彦 君